= 4

男氏(六回)を選出し、続いて

総会は最初、

司会者に豊田治

制度を設立することが承認され

昭和52年5月22日

昭和53年3月13日

3月中旬

5月21日

11月

昭和54年1月

本会報に別掲のような基金

以上の総会に続いて、鈴木

議長に若林長生氏(専一回)、議

問題」と題する講演会が行なわ

「現在のマスコミの当面する

十五年卒、元中日新聞論説委員) 一夫氏(三重高農・農学科昭和 の先生のお顔を拝見することは

ぞれ承認された。(六)基金制度

駒田洋氏(院十回修了)がそれ

会員諸氏が各地から参集された。

かし、今回は残念ながら恩師

当日は快晴となり、約五十名の るのは今回が初めてであったが



各地から50名が参集した定期総会 専門学校に農産製造科の新設で るのみで大学へ移行した訳にな 革により三重大学農学部の一学 ある。その三年後には第一回生 化学科の第一歩は三十余年前、 科になりました。従って農専農 が巣立ちましたが、同年学制改 ることになります。現在の農芸 十七回生が卒業することになり すなわち昭和二十一年三重農林 明年、大学設置三十周年を迎え 三重大学農学部農芸化学科は の第四番目の学科として設置さ あります。この間昭和四十一年 明春十二回目の修了者が出ます。 には大学院修士課程が設置され さて前述のように、

はじめ多くの同窓生は、 この同窓会は遅ればせながら五 通して皆様にお伝えして参りま 年前に三翠化学会として発足致 学科にひきつがれておりますが れた農産製造科は農学部農芸化 したが、現会長および前会長を しました。以来その活動につき このような背景のもとに三十

三翠化学会の活動は如何に

趣意書 (同封別

の事業をおこそうではないかと 年を一つの区切りとして何らか の会合をもち検討して参りまし 員および評議員の中からこの件 これを受けて昨年七月頃より役 いう機運が高まって参りました。 関する委員会を設け、十数回

ますが、会員諸氏にはどうか意 のあるところを十分おくみとり いただき何卒で協力を賜 員一致で可決されました。 以上がその経過の概要であり

ことであった。

仕事をされた前田巌氏に執筆

をお願い致します。

も長い間先生の部屋で一緒に

会での先生に就て、同期で然

生の業績・大学での先生・学

かにつき真剣に考えられており ます。また役員会評議員会にお べきか、如何にして発展すべき いてもいつも議題として取上げ られ、熱心に討論されてきまし 紙)のように三十年を記念し、 ただきました結果、いずれも全 員会および五十三年度総会に付 を行う計画をたて、役員・評議 への啓蒙を二本の柱とした事業 三翠化学会の組織強化と在学生 慎重に審議討論をしてい

> 何時までもそのまま思う様にや 論の実験に就ても何も言わず、

る先生の教えは、何時迄も受継

体でたしかめて自分のものにす

般に言う学者じゃない、実際に

は随分の数になると思います。

今書いた様なお世話になった人

先生は亡くなられましたが、一

三重農専

ず元気になられることと思い、 たが、今日から始まる輸血で必 えず大分元気もないで様子だっ は一ヵ月前に比べると顔色も冴 病院へ。輸血を受けて居る先生 の若い人三人申し出てくれ早速 られるとのことで、輸血も保存 と言ってお別れしたのでしたが、 に他学出身であるが同じ技術系 「頑張って下さい、また来ます」

ということになり慌しく とび 卒業間近になっての就職のお世 といった状態で、東奔西走の日 違って一月から三月のはじめ迄 話も大変だ の二ヵ月間に殆んどの卒業生を たくなる程資料もたくさん揃え 丁寧にこちらが途中で逃げ出し いことがあり質問すると、実に らせてもらったし、何か判らな て下さる、というやり方でした。 ったようです。今と

註 今お体の都合で書いて頂け

ませんでしたが、次号には先

時迄も見守って下さる様、お願 先生もあのあたたかい眼差で何 がれてゆく事と思います。又、

して擱筆致します。

評議員2名、新たに追

昭和53年8月31日

員の追加は、新たに二十六回と して吉岡幸一氏、大学院として や汗ばむ程であり、 を深め合った。 のたつのも忘れて歓談し、 六回)の司会による懇親会で、 話され、全員が熱心に聞き入っ も一段と増し、グラス片手に時 ぷりあり、折りからの晴天でや 今回は特にビールと料理がたっ れた。ロッキ 講演会の後は、酒井敏秀氏(十 素人にもわかりやすく ード問題なども例

役員、評議員会 (第1回)

役員、評議員会 (第2回)

役員、評議員会 (第3回)

役員、評議員会 (第1回)

役員、評議員会(第2回)

役員、評議員会 (第3回)

役員、評議員会(第4回、

東海支部設立準備会

会報第8号発行

会報第7号発行

午前十時三十分から名古屋市西

十二年度事業報告、

十二年度会計報告、(三)昭和五

二年度事業計画、

区の全逓名古屋会館で開催され

総会が三重県外で開催され

十三年度予算案はいずれも別表

のように承認された。(五)評議

援歌を合唱してお開きとなっ 最後に三翠 昭和52年度三翠化学会事業報告

総会

昭和53年度三翠化学会事業計画

昭和53年4月2日 東海支部設立、第1回総会

総会

8月31日 会報第9号発行

6月30日 役員会

(株) ある

(題字は稲川先生)

9

昭和53年8月31日 発行

学 農

学

科

浜町1515

第

翠 化

芸 化 学 名古屋 59345 津(0592)32-1211

大 重

二農

昭和52年度三翠化学会決算報告 119,919 前年度繰越 費 403,000 会 39,383 雑 562,302 110,000 102,050 85,035 30,000 20,000 支部設立補助金 96,935 473,142 計 89,160 差引残高(次年度繰越)

昭和53年度三翠化学会予算 金額(円) 89,160 前年度繰越 650,000 会 費 雜収 30,000 769,160 350,000 会報印刷費 支出の部 郵送通信費 200,000 会議費 100,000 50,000 事務費 30,000 こうより補助金 支部設立補助金 20,000 19,160

顔の色艶も良く、やや手首の辺 話を笑って聞いて居られる。お が、もう肺炎も治り冬の寒気を なさったとのこと「暖くなった 春の学会には既に出席の通知を 避けて静養してみえるとのこと はあ、寒い間ゆっくり休んで下 らまた走り廻っていただけます が細くなられたかなと思う程度 し暫く話をする。先生は我々の で安心し、先生の枕もとで奥様 たのであった。 それから春の訪れを待つこと

> バッグとして出廻って居ります。 が紅茶・緑茶・麦茶等のティー てみえましたが、現在ではこれ

回の今井正之君が居て、彼の他 った連中を探すと、幸いに十一 出張とか都合が悪く採血しなか 前に集団献血をしたばかりです がとられる。私の職場では少し 者リストも出来上り万全の態勢 の必要あり、血液型はA、保存 皿では駄目とのこと、大先輩や く採るわけにはいかない。 人学関係同窓生のご努力で献血 こと。そして三月七日には輸血 しばし、先生が入院されたとの

情味溢れる親仁さん

長瀬重蔵先生を偲んで

大 卒業生の再就職の世話なんかで 味溢れる先生・親仁さんでした。 たことを思い出します。私共が えました。仲人役もずい分沢山 も本当に一生懸命になさってみ のようでしたが、実際には人情 は見た目には取っつきにくい方 アと思って居ました。でも先生 召されて益々博学になられ、と の記録を克明にメモされ、よく 私大への講義・各学会への出席 先生を初めてお見かけしてから その当時は水に強く浸出性のよ なさいました。卆業生の中でも てもついて行けない様な感じで 整理して居られました。お年を 誠に精力的に動かれ、その都度 いかの如く何時もお元気で、各 いつ迄たっても先生は先生だな ・旅行(国の内外を問わず)等 一向にお年をとられることのな い紙を……と言って探してみえ

お世話になった各先生方のお姿 川先生のお葬式に参列した際、 のかなあと思い同級生と話し合 姿が見えないのでどうなさった は拝見したのに、長瀬先生のお て居ると、後からみえた青木

769,160

期生が食事をし小時歓談の後ド り、以来ずっと臥って居られる ヤドヤと例の調子で先生宅にお そうです」と言われるので、 さんが「昨年末より寝てみえる 昨年の十一月末に肺炎にかか 製造実習と、 をしたりの

五人でお世話になり、いろいろ 柄から先生のゼミに入り同期生 園芸利用学講義から始まり農産 先生とので縁は一かたならず、 報に接したのでした。 の挨拶に廻っている矢先、四月 ご指導を受けたり、エスケープ 思えばこの四分の一世紀余、 年を過ごした。卒 入れたお茶を盛んにおっしゃっ 出張先の長野で訃 人並みの師弟の間

イデアも随分お持ちで、紙袋に くの間、私共の会社へもおいで 深い知識で随分助けていただき いただき研究所長としてご指導 ていただいたり、調査をお願い と、それに関連すること等教え ました。新しい商品に就てのア いただきましたが、広い経験と したことも再々ありました。 三重大学を退官なさって後暫

出してしまい、落着いたらお伺 思いつつお得意様へ や夜お宅へお邪魔して仕事のこ

学校の先生の部屋

田 映 が定年退官された後、後任教授

当研究室では、昨春石川先生一い分野で活躍しておられますが

栄養化学畜産物利用学研究室

研究を簡単に紹介いたします。

最後に、現在行なわれている

究室として張り切っている次第

52昭 年 度和

り、農芸化学切っての若手の研 加えた八名が研究室の総勢であ

今後は、更に生化学的手法を導

入した栄養化学に意欲を燃して

ることもしばしばです。

次に、研究室の紅一点伊藤嬢

知見が得られている。つぎに古

そんなことを川柳でと思って と喋ることの下手な私ですが、

とのことです。

が展開されており、

いろいろの

氏の言葉を借りると「もとも

筆者にはとても理解できそうに

もない調べが、研究室内に流れ

と卵白アルブミンに関する研究 ラ豆レクチンの蛋白化学的研究 まず高橋先生を中心として、ト

門を受賞されました。

大学三回卒奥野誠二氏が昭和

として、今春生物化学研究室よ

り、高橋孝雄先生(大学六回卆)おられます。

二翠化学会副会長)をお迎えし

名の研究生がおりますが、音楽

本年度は、四名の専攻生と一

を中心とした種子蛋白質に関し ました。高橋先生は、レクチン

し数多くの業績を積まれ、更に

には楽器をとらせると、プロ級 に趣味をもつものが多く、なか

どの引出にどのようなものが納

者らにとりましては、研究室の らず元気に活躍しておられ、 は、実験のベテランとして相変

の臓器特異性及び、種類による

酵素の蛋白化学的差異について

たので御紹介します。

作品五句を投稿いただきまし

筆

ーゼを中心とする加水分解酵素 市を中心として、家畜のアミラ

は核酸関係、医学関係と、

ての文化について論及している。

態度価値』の重要性を私に初

人生における諸価値のなかで

でろしきりと思うのも、このこ

私が、この齢になって、この

それは理屈ではない。人間の本

高質なレベルは、人の心を打つ。

性として、人間の本質的な機能

であり、だからこそ、

の一つとして、内在しているか

とである。われわれは、今日、

しかし、人間の本質に関する

クル(「死と愛」(みすず書房)) めて教えてくれたのは、フラン

けさえしなければ、あとは何を

れた存在の様式である。 らだ。これは、人間のみに許さ

しようと勝手だ。他から、とや

人間は自由だ。他人に迷惑をか

であったが、その後、イエスを

人間のさまざまな展開形式とし

言語・芸術・歴史・科学など

えの、根本的な命題となる。 人間の生を健やかに全うするう

ボルを操る存在として、人間の

きないという点である。つまり秘めていることを、感銘深くの

態度(志向)の質である。より

大10

特質をとらえ、そこから、宗教

びころつきはじめてからこのか 本をくくりつけ、海岸の松林に た、私の一貫したモチーフであ った。古ぼけた自転車の荷台に に生きるとは、どういうことな

間」(岩波書店)において、シン のない新たな疑問を生みながら 農学部学生時代に始まったこの 探求は、今もなお、尽きること 赴いては、読みそして思索した。 私の心に一番強く去来している 属する身となってしまった。 続いている。あれから二十年近 ことを記してみたいと思う。 ついろなことがあったが、今、 い歳月が流れ、いつしか中年に E・カッシラーは、その著「人 のなかで、 を実現するか、その意志選択を 二つのことを内包している。 価値判断をまぬがれることはで に感応する琴線を、万人が内に つには、レベル選択にさいして つは、我々は、いつも、現状況

のも、このことに関わる。 の顔に責任を負う、といわれる ルの多様性を証す一つである。 書房))。これも人間の実存レベ いる。(「人間・その顔」(みすず 人は、三十才を過ぎれば、自分 ざまの死顔を表わす。と述べて 存在様式の多様な可能性は、 るときである。フランクルは、 分が餓死することを覚悟しなけ 人の神父が、これを与えれば自 ィッツ強制収容所において、 に現われるのは、 「夜と霧」(みすず書房)のなか ナチスドイツのアウシュヴ

せまられており、それゆえ、二 のレベルの存在することを、そ いかなる実存レベル して、そのような至高のレベル のなかでとりうる態度の、至高 実例をひき、人間が、ある状況 に、己がパンをすすんで与えた 病いで苦しんでいる同房の一人 ればならない極限状況のなかで

等価なのではない。その領域に

無数の多様な存在レベルがある。

こには、重大なものが欠落して うか。私は、長いあいだ、それ を委ねてしまっているのであろ するようになった。それでは、 いることを、最近になって痛感 でいいと思っていた。しかしそ 人生は充足しえないことを。 えしなければ、あとは恣意に身 法律にふれない領域は、みな 機が与えられるのである。それ

高質のレベルをめざさんとする のなかで、できるかぎり、より 大切なことは、与えられた状況

> る必要があろう。 はだかっていることに、留意す あるが、一方、大きな陥穽とな 体は、かけがえのない価値では 多大の便益をもたらし、それ自 って、われわれのまえに、たち 生の高質なる発現の遮断を意味 ゆえ、苦難からの逃避・回避は する。現代の物質文明の進歩は

と倦怠へと向かう、人間性貧困 かにある陥穽、それは、無感動 を、即幸福と思いこむことのな 労苦からの解放もしくは回避

至高の実存レベルへの実現の契 る最大の愛の表現でなくてなん イエスの、われわれに対す

われわれは、法律にふれさ

も尽きた。結論的にいえば、 何によって、存立しえているか よび自然界が、何によって成り、 があるとの確信は、この宇宙お の宇宙をささえ、存立せしめて の心に強固なものとなる。 に思いをはせるとき、一層、 労苦を担うことに、生の本質

化への道である。苦難・労苦を 間の高質な機能は発現されるの になうことをつうじてのみ、人 れ、成就し、そして世は、 のみ、われわれの生は、充たさ 捧げる、そのような愛において 構図は、先見的に存在している。 校で学生のまえにたつときも、 構図ではないか。これは、しば によって、他を生かす」ーこの そして、他のために、己が今を いる本質は、「己れを死すこと しばひきあいにだされる食物連 庭で子供に対するときも、 のなかにのみあるのではない つ、いかなるときにも、この

労苦を甘受することのなかに

みちて、説いているのではない その場における労苦)を、みず 真正なる道があると、彼は確信 ての生をまっとうするための、 葉のなかに、人間が、人間とし からすすんで甘受せよ、この言 か。十字架(今、あなたがいる 十字架を負えと、かくも熱意に イエスは とができますことを。 多くの時間を、己れを捧げ死ぬ とできるだけ少なく、与う限り 幸福と勘違いする迷妄に陥るこ 営為において、全うしてゆくこ しつづけてゆくのであろう。 願わくば、一回的なこの人生 狭隘な、己が恣意追求を、

る。M・ピカートは"動物の死

へルをとりうるということであ

のである。

とだったのだと、今にして思う るのは、ほかでもない、このこ はじめ、数多の先哲が教えてい

ともすれば、法律に抵触するか

否かで、善悪を判断し、それで

るのではないか。その感動をよ

にこそ、人生の充実の本義があ

感動体験の豊富さのなか

この高貴なる機能充足の表徴で

感動とは、万人に内在する、

との風潮がびまんするなかで、 かくいわれるすじあいはない、

つは、人間は、多様な実存レ

顔はのっぺらぼうであるが、ひ

あり、その質を反映する。そし

態度は、人間の行為の表徴で

事足れりとする傾向に陥っては

いないだろうか。しかし、そこ

て、その様相が、もっとも顕著

には、根本的な欠落があると思

人間の高貴な可能性はためされ、

生きてみせたのであった。これ

であがなうなかで、己が生を、 したのであり、それを、血と汗

、れる貴重な存在であります。

従って、以上の七名に古市を

に位置しております。近くへおなお、当研究室は一号館一階

越しの節は是非お立寄り下さい。

ある。苦難との闘いのなかで、 びおこす最大の契機は、苦難で

とり人間のみは、人によりさま

特有なことのうちで、私が今、

少し別のところにある。人間に 私の主たる関心は、それとは、

もっとも心魅かれていることの

会だよ

(訓柳)を受賞 奥野誠二氏(大三回卒)

五十二年度三重県文学・川柳部 エッグ 追い越しを無言でかける青い

父よりも鬼は淋しく石を積む

教え

児の仰ぐその樹はポプラだと 採点にこだわる光る鉛筆よ

醒めた瞳と踊ろうとせぬハム 氏の温厚な人柄がうかがわれ

クスがありましたら是非投稿し を結成されたらいかがですか。 て頂きたいと思っています。 また、その他にこの様なトピッ 絡をとって、三翠化学川柳の会 同好の士がありましたら御連 る作品です。

名乗られるまで 見わけられず

の長さを改めて認識した次第で ラス会に出席とあらば無理がな であろう。卒業以来、初めてク 違っていても完全に気付かない であった。駅頭であれば、すれ りをした後、入浴・雑談を交し である。十日は土曜日のためか 者にとってまさに"感激"であ をやっているが、今回は三十年 いとしても、三十年という歳月 たのではないかとさえ思った位 は皆目見当がつかず、別のグル もかかわらず、名乗られるまで 席』という心の準備があるのに のを待っていた。 "誰々氏は出 ながらメンバーの集まってくる 場に集合、直ちに宿泊の部屋割 ず、午後三時頃から三々五々会 開催予定の午後六時を待ちきれ ら敬意を表しかつ感謝する次第 の並々ならぬ熱意と努力に心か り、出席者の一名として両幹事 ろしきを得て、四十一名中二十 粥見・渡辺両幹事の事前連絡よ 目で一つ盛大にということで、 目を記念してクラス会を開いた。 のホテル第三賢島で卒業三十年 ープのメンバーが迷い込んでき (日)の両日にわたって、志摩 名の出席をみたことは、在津 私共のクラスは毎年クラス会 去る六月十日(土)、十一日 多数の出席者のもとでの次会 |三月〉卒 嶋林記) 食後ゆっくりとくつろぎ、よ ルフ組と残留組に分れて起床。 の案内で寝についた。翌朝は 談論風発、夜の更けるのも忘 のすばらしい一ときであっ アルコールを口にしながら 名残りを惜しみつつも、幹

間延長、「大キナ節」でやっと区 あった。予定の宴会時間を一時 時間の経つのはあっという間で を入り乱れての放歌高吟、それ 月なんかは一気に吹き飛び、 切りをつけた。その後、場所を に加えて懐旧談や現況報告等々 となっている紳士諸氏も気心を 明があった後、宴に入った。今 状、基金制度、抱負等につき説 所で、クラスの重鎮、岡田三翠 直線に学生時代にかけ戻り、 許しての本席では、三十年の歳 日各職場で大なり小なり責任者 化学会会長から三翠化学会の現 ほぼ出席者メンバーが揃った

> 一回卒 のあざやかさに驚きつつ。 を約し、適宜帰路についた。

岡田、粥見、酒井、芝田、庄山 を表しながら、両幹事の手並み がら、遠路出席者の熱意に敬意 しかったクラス会をかみしめな 因みに当日の出席者は、今西

翌日、揃って総会へ 大六回卒

農産製造科一回〈昭和二十四年

に加えて嶋林であった。(専門

松村、山田、若林、渡辺の諸氏川、林、東、藤田、別府、松田

豊田、長瀬、中尾、西村、長谷

通君は早退のために撮ってい は十七名であるが一名・西川 年目を記念したものでした。 れましたので、その前日にクーます。いかがでしょうか 化学会の総会が名古屋で開催しんに行ったらとの意見も出てい ない、卒業生十八名(写真中)が出席し楽しく会が運びました のダイゴで五月二十日一泊で 林先生をお迎えして名古屋・ で、今回のクラス会は卒業二 昭和三十三年に卒業しました | ラス会をもつことになり、翌日 が参加し盛会でした。三 ことは嬉しいかぎりです。 っていますが、もう少しひんぱ んでしたが、クラスの三分の二 はそろって総会へということで 当日まであまり期間がありませ した。従って日程を決めてから 次回は五年後ということにな



海支部 (支部会長 = 別府宏氏)

この四月に発足しました、東

の近況を報告します。

まで、まあまあ大変なさわぎで

点の付け方からステップの指導 差、ウデの差ははなはだしく、

国への出張の機会に恵まれ、

ら二カ月間、文部省在外研究員 としてアメリカ、ヨーロッパ諸

さて、私は五十一年三月末か

女連(奥さま・彼女・子供たち)

会社名を記し、感謝にかえます

松村工芸佛様

以下、御協力いただきました

午後一時半、嶋林先生の始球

ばかりの群ではなく、

つてのチャンピオン(?)腕にお

愛知ヨーク㈱様

十三名、家族二十四名の計五十

い歓声のうちに、大会をおひら を、腕いっぱいかかえて、楽し

いつもの男 会員の淑

の富士ボーリング場に、会員三

残暑のきびしい名古屋は今池

もりだくさんの賞品と参加賞

家族ともども楽しもう、という

伊佐 (大3) 高橋(大6)夫人 杉本 (大6)

嬢

取りもどしているボーリングを

行ないました。最近また人気を

夫人

し初めてのリクリエーションを

け

大一回卒

都合の悪い人もあって、半分弱 選定がやや遅れた為、いろいろ 総会出席もねらって)開催した クラス会、開催の会場、日時の しか寄れなかったが、結構たの 卒業二十五周年と銘うって 高橋一郎 西川英郎(茨木市・日本合成化 高岡正美(大阪市・日本製粉) 清水利一(伊勢市・牛虎・清水 (徳島市・県食品加工

映(名古屋市・井村屋製 (松阪市・ヤマモリ食

しい一夜であった。出席者は都

水谷和一(四日市市・市役所) 桃井純夫(常滑市・盛田)

奥田孝夫(上野市・県上野農業 岡本正雄(鈴鹿市・庄野澱粉)

だった。その彼が寄せてくれた ホテルへ家族をかくしてやって 来て、寝る頃に告白してホテル 彼を中心に話ははずんだ。そし 高橋一郎君が参加したことで、 回で八回目)はるばる徳島より のは今回はじめて(卒業以来今 一文がありますのでここにで披 て彼は家族同伴で来り、近くの へ帰って行き皆を口惜しがらせ 何といっても会を盛り上げた 全く高橋ペースで進んだ会 発展しておりますことはまこと に喜ばしいかぎりであります。 よって、三翠化学会のますます 諸君のたゆまざる努力と活躍に

の十二名で前記福田支氏のお世 前」「俺」の連発で一夜を過した 翌朝まで二十五年前に戻って「お 話で名糖産業の犬山保養所をお

十年になんなんとする年月が流 年、本学に赴任してから早や三 言ったもので、私が昭和二十四 る研修にすることができました。 御支援をいただき、より実のあ する次第であります。 まずもって関係各位に深く感謝

田舎の大学町

各地に多数のキャンパスを持ち わせて一万七千名という米国 ビンなど、カリフォルニア州 をはじめとして、サンフラン も屈指の大規模で、 私のおもに滞在したデービスキ クルス、サンタバー スコ、ロスアンゼルス、 書いてみたいと思います。 フォルニア大学を主体に、 ャンパスだけでも学生、

から東北へ、車で二時間余りの 学である。

東海支部でボーリング大会

ある八月二十七日に、支部とし

また、夏休み最後の日曜日で

金森君 (大13) 金森君 (大13)

ス会を持っていただけたことは

した。しかし、大会への出席を まりは今一つパッとしませんで う日の浅さもあって、会員の集

つあることを痛感させられまし

業、風俗などの外国への紹介の

わが国の大学、研究所、各種産

ための資料やスライドなどの提

てんやわんやのうちに、

立総会の日より

一ヵ月半後とい

ったわが娘まで(注、小・4で

ックアップしました。支部創 への呼びかけまで、全面的に 場設営から、幹事による支部会

子会定期総会開催にあたり、会

た鈴木さん (大・2) の御子息

ムの救世主かも?)から、1ゲ

書いてみたいと思います。

と体験してきましたので、順次

は "こうより" にも書いてきま ど訪問してきました。その概要 地の大学、研究所、関連企業な

したが、各国、各地でいろいろ

(ヒョットしたら、第二のブー

娯楽施設がなく、息抜きには、

サクラメントやサンフランシス

る。ただ町には、これといった 学生共々恵まれた環境の下にあ

コへ出かけるようである。

を誇っているのであるが、この

- クレーキャンパスが古い伝統 カリフォルニア大学では、

市民の大半を大学関係者が占め は、車で約半時間の道のりであ

教育研究スタッフ

A. D. WEBB 教授 (左) と筆者

インの醸造、ワイン醸造に関連 ン醸造の高等教育研究機関であ 授をはじめとして十名に及ぶ豊 富な教授スタッフを誇る、ワイ この醸造学科は、ウエッブ教 BIOCHEMISTRY AND BACTERIOLOGY WATER SCIENCE FOOD SCIENCE AND VITICULTURE AND のあった所で、従ってわが国で がみうけられた。 ントの中で、私に関係の深いも 有名である。

数あるデパートメ いう農学部関係の部門が、もっ もとカリフォルニア大学の農場 はじめとして種々計画中のもの スキャンパスには、私の滞在中 する傾向がみうけられ、 近頃では田園都市に向けて発展 過飽和の状態に達した感じで、 という大都市に近接し、すでに とも歴史が古く、充実しており にも、医学関係の大きな建物を デービスキャンパスは、もと AND ENGINEERING

TECHNOLOGY

であるA・D・ウエッブ博士か および醸造学科)のチェアマン ENOLOGY(ブドウの栽培 * VITICULTURE AND 知見を得ることができた。 の彼との対話にはいささかへき げるような大男で、上を向いて 名な学者であり、又学会誌より えきしたが、いろいろと貴重な 飲食品類に関連する酵母菌につ 一足先んじているイーストニュ は、酵母菌に関して世界的に有 フ博士はかなりの年輩とお見う けしたが、威風堂々とした見上 いるH・J・パフ教授をたずね し、最も新しい情報を提供して いて意見の交換を行なった。パ 食品工学のデパートメントで -スレターの編集者として活躍

> の地域であったことも原因し 前から、この地方は水不足気 処理が、世界的に問題となる

非常に立派な建物、研究施設と

地下貯蔵室のワイン



デービス・キャンパスの廃水処理施設とその管理室

かたむけながら、世界も狭くな

ストランで新鮮な海の幸に杯を

喜び、お互いの健闘を祝し合っ ったなあーと異国での出合いを

大学や企業からの留学者も多く ど印象に残るものが多い。この 下貯蔵庫の莫大な数にのぼる多 種多様のワインやブランデーな 若い研究者が研究にはげんでお ントスケールの醱酵タンク、地 イエンスの学位を得ることがで 院コースをおえれば、フッドサ び実習が行なわれており、大学 アパートメントには、わが国の 内、車の運転などいろいろと 授の紹介、キャンパスの説明 世話になった。 の大学の後輩にあたる奈良女 が伺えた。又この研究室に、 語のチャンポンで話を進めた 五十才前と思われる若い教授 H・土井博士を訪問した。彼 八学の先生が留学されており げる大変な努力と御苦労の 研究室をここまで立派に育 日本語もなかなか達者で両

ある。

私の好きなムードの街の一画で 客を呼んでいる。肩の凝らない キなどを食わしてくれる屋台が を並べ、新鮮なカニ、エビ、カ 物料理のうまいレストランが軒 画は、沿岸漁業の基地として発

サンフランシスコのこの一

展した地域で、缶詰などの食品

工場もあり、海辺一帯には水産

がら、その予算規模の大きさ のには、当然なこととは言い 活性汚泥法を取り入れて、生 較的多いが、現代のように廃 学的に高級処理を行なってい のである。大規模な散水沪床 プラントは、なかなか立派な パスには、水関係の部門が に感心させられた。このキ -ビスキャンパスの汚水処 服部君も今では、彼の地になじ 翠化学第八号」の彼の記事から はじめとするわが国からの各種 醬油やワインなど、研究開発の 味料としても使われている。「三 シンで醬油の原地生産を行なっ の調味料が広く出回っており、 えば大味のものが多く、醬油を ている程である。又、わが国や キッコーマンでは、ウィスカン ハワイで醸造された清酒も、調 外国の食事は、どちらかと言

BIOPHYSICS

トメントの研究室である。

田弘一君が学位論文の研究の一 話になった。化学第一回卒の吉

部を行なったのも、このデパー

と御活躍を念じつつ、 ことと信ずる。 重責を担って大活躍をしている 三翠化学会の皆さんの御健勝 家族も呼んで腰をおちつけ 今回はこ

の辺で筆を置きます

涌師の波止場で 11

師の波止場)を訪れ、とあるレ 第六回卒の服部照光君となつか で市の海岸にある、有名なフィ 身赴任したのである。彼の案内 のマネージャーとして当地に単 TERNATIONAL INC. 彼は、私の渡米に先んずること ッシャーマンズ・ウオーフ(漁 いひと時を過すことができた。 サンフランシスコでは、化学 KIKKOMAN IN-

回日本人の知り合いに会うぐら きすることと、一カ月に一~二 なった。日本語は手紙を読み書

いだったので、最後のころには

カナダにおける研究症活 Û

員として、五十二年九月から約 半年間、カナダにおいて肥料を 帰国したので、感想などを肩の アーマに研究をし、この三月に 人事院の行政官短期在外研究

しいるひまはなく、すぐ人を訪 日本語が面倒に… 語学の方は行ってから勉強し とそれが面倒くさくなり、とう 英語でレポートを書くはめにな った。カナダの政府も、私のま とうあきらめ、英語で理解をし とめたレポートを見たいという ると私が外人だったのですが) 点もあって英語で書くよう勧め いろいろな習慣も異なり、言葉 わりが外人ばかりで(よく考え 当初大学へ着いた頃には、ま

ん理解できるようになり、最後 の頃にはレポートの点も向上し カ月ぐらいたってくるとだんだ おした。しかし、授業の方は三 った。そのため単位をとるのを の点数もあまりかんばしくなか なかなか理解できず、レポー ため(私にとってという意味で) が、授業は教授が早くしゃべる た。 ったりしてとにかく疲れを感じ も日常必要な単語が出て来なか あきらめ聴講生として登録しな やがて生活には慣れてきた

大1

高橋

郎

各機関を訪問

小さい子供が二人

学の寮は半ば以上がCO-ED 隣り合わせであったりしてかな 楽しんでいる。 ものはなく、全く自由な生活を となっていて、門限などという り悩まされた。カナダでは、大 員のため、いわゆるCO-ED 学生用の宿舎を申し込んだが満 (共学)の宿舎に入るはめとな 個室ではあったが女学生と

役所に帰ってから日本語の報告 それを日本語に訳し、それをま らったときなどは、帰ってから 日本語を書くのが面倒になり、 現地で資料をも

めて日本語でレポートを書く

こらない話を交えて紹介したい。

や生活がだんだんとよくわかっ 彼等の生活に完全に溶け込む て来て、また語学の訓練にもな には到らなかったが、話し合 り、その後の訪問旅行にプラス いを通じてカナダ人の考え方 学生達とは年令の差もあり、

勉強しておいた方がよかったと ておく必要があった。十年以上 痛感した。特に、東部のケベッ 然知らなかったが、カナダでは 問したりして実地に使わねばな んどであり、英語は街中では通 ク州ではフランス系の人がほと たが、その後も自分で練習を続 も前に英検の二級に合格してい らないので、かなりの力をつけ じなかった。 し、私の場合、フランス語は全 けて来たのが役に立った。 ランス系の人もかなりいるた 少くともあいさつぐらいは しか

わたくしは

所、腹の出たもの、頭の光って 約半数、場所は犬山の名糖保養 年目に会った友は十四・五名で 番最初の感触であった。二十五 に合ったクラスの友におれの

生きていること、二十五年目

えない。さて当日妻と子供との

旅行もできた。帰りに京都を見

活は一貫して包装関係の仕事に

一十五年間のサラリーマン生

おれの目から今もあの映像は消

断であります。

小企業の主として生産、技術診 理の技術開発、品質管理及び中

のだ。その金で買ったキュウリ、

西山とよくアルバイト

アルバイトの金で買ひたるキ

ュウリなり幾度かみて味いみ

支援に支えられ今日に至ってお

専門分野は包装産業関

御交際頂いた皆様方の温かい御

学した。その時の思い出に、

妻と今祭に遇へるよろこびを

後とも「この途しか生きる途な

」の感であります。

同窓の方

促事してまいりましたので、

今

るもの、うすくなっているも

仕事は農産加工科、ミカン果 砕きて農地に死の影はとぶ

の、白くなったもの、それぞれ

また生活の面では、大学の留

がて英語でものごとを考えるよ

夜も英語を話していると、や

由きままに行動ができた。昼

ころには英語で夢を見るように っになり、二カ月ぐらい経った のには非常に役立ったし、又、

いたが、これが英語力をみがく もいることもあって単身で出掛

の時代の歌に岩田先生の三重ア くても楽しく充実していた。あ の伝統がのこり、野蛮で金がな

サラリーマン時代に技術士と中 んで三年目を迎えております。

を生き抜いてゆくことは企業に

内外ともに多難な経済情勢下

こって大へんな智恵と努力を必

小企業診断士の資格を取得出来

たこと、この間に親して

御指導、

マン生活から独立自営の途を選

一十五年間にわたるサラリ

衛氏の前に放出しずいぶん叱ら そして冬、マドションをして守 は今日のこの肉よりうまかった。 油をしぼられた。あのイモの味

れた。あの時代やはり三重高農

中野と二人で農場へイモのアタ

ラスの友と会いたいものだ。

また、何年か生きて暮してク

6うに浮んできた。 入寮の夜、

十四年の寮の生活が走馬灯の

っクにいき翌日先輩にみつかり

専3

浜口啓

係先も多様化しており、総合的

に問題の解決を計ることの出来

体制にありますので、どんど

加工機械メーカー、商社等々関

カー、包装材料加工メーカー、 幸いなことに現在石油化学メー は幸いなことと考えております。 を忘れて話した。話を聞きなが

ら食べるものの少なかった昭和

水流れる工場にミカン剝きお 透明の暮しに生きる吾にして

に判断することが出来ますので

プールの水質検査だ。 pH残留

一様方の仕事にお役立て頂けれ

じ装の本来の在るべき姿を率直 が、現在は自由な立場であり

と、家のこと、など楽しく時間

た。仕事のなやみ、部下のこ 十五年間生きてきた証しであ

加工、スダチの貯蔵等研究して

離れることが出来なかったので

ます。従来はメーカーの立場を

争されておられることとおもい

々の多くは食品関連の仕事に従

ワインの開発、特産ヤマモモの 什と紙容器との関係、シトラス

いる。最後に仕事の歌を、

日本の肥料事情を紹介 大学では講義は五教科聴講し一広くて、日本ほど旅客電車やバ 大十八回卒 茂

かった。やがて余裕ができるに 転は全く楽であった。とにかく一楽しく過ごすことができた。 ためにはどうしても車が必要に も予習や復習のために余裕がな 本の半値であり、道も広くて運 にも役に立った。ガソリンが日 たが、週末のドライブや買い物 険を含めて月五万円ほどかかっ なったので車をリースした。保 て近辺の機関(ほとんどがトロ たが、最初のうちはそれだけで したがい、私のテーマに関連し -市)を訪問し始めた。その 問項目を整理し、話がとぎれな ス網の発達していないカナダで 私も快く受け入れてこの時間を ないが、昼食にはよく招待され の質問に応じて準備しておいた は車がないと全く生活ができな 日本の肥料事情についても紹介 し、好感を買った。日本のよう いように注意した。また、相手 いような状態である。 に夕食に招待するという習慣は 訪問に際してはあらかじめ質

> 分であった。 たため食べすぎて、 たが、これでちょうど私には十 ンや食後のケーキはやめ、スー 腹の調子をくずした。その後パ の昼食も日本と比べると量が多 フと主食(肉と野菜)だけにし く、最初は彼等と同量食べてい ただこの昼食も、 また大学で

役 うらやまし 人の生活

の役人が働いているので、ほと では、大きい建物の割に小人数 他の機関などを訪ね、肥料関係 の情報を集めた。カナダの政府 われている。 んど個室又は二人部屋があてが として、農務省や通産省、その に戻り、 十二月の中旬には主都オタワ 農務省の一室をベース 私も二人部屋をあ

十時や三時のコーヒータイムに 時間ぐらいらしいが、その後コ る。特に昼食時には、原則は一 はみんなで集まって談笑してい ができた。朝仕事を始める前、 のでほとんど一人で快よく仕事 スマスの休暇を二週間もとった ヒーなどを飲んで大体二時頃 る。

の話をしているからビジネスタ 仮等に言わせると、これは仕事 までは仕事につかない。しかし、

こますようお願い致します。

記

たので御確認下さい。会費納入 振替番号 名古屋 59345

ハしたカードを同封致しまし | 御明記いただければ幸甚です。 Uます。また会費納入状況を | 業回数」と「何年度分会費」を 十度以降の会費に充てさせて

一の際、振替用紙の通信欄に

「卒

昭和五十三年度までの会費を

は一切やっておらず、私の滞在 時間が短い。休みも自由にとれ 半には終るため、特に午後働く と申告している。当然残業など うちから働き始める)、四時 っていた時も国会開会中であっ 一分の働いた時間は月に一回ほ は日の出が九時でろだから暗 仕事は八時半から始め(冬場 ムということである。

四時半には全員帰ってし

料は最高の水準であり、我々と である。ところが税金や強制保 比較すると二倍近くであるよう ある。ちなみに国家公務員の給 でおり、土地が安いということ が、すべて広い立派な家に住ん 険の率は高く、我々の年代で給 とまことにうらやましい限りで てるようであり、我々と比べる もあるが、五年も働けば家が持 料の三割は差し引かれている。 役人の家にも時に招待された をしたりして優雅に過ごしてい みは長くとり、その間海外旅行 るのか軽蔑しているのか、とに まう。我々が恒常的な残業をや ように夏休みやクリスマスの休 かく驚いていた。また、前述の っているというと、感心してい

未納の方は是非とも至急納入戴

窮状を御賢察の上、会費納入に 御協力の程お願い申し上げます の節、誠に恐縮に存じますが、 きる状態にあります。出費多端 合は、お申し出のない限り五十 金額以上をお送りいただいた場 かろうじて最低の活動が維持で 度会費を納入いただいておりま すが、本会は一〇〇%の納入で なお五十三年度までの所定の 現在、約半数の方が五十三年

えております。大企業、中小企 を支える技術の開発であると考 業を問わず日本の産業の大きな とする商品の開発であり、それ の最大の武器は時代々々の必要 ています。今後ともこの方面の マネージメントがとりあげられ 弱点の一つとしてテクニカル・

同窓の皆々様の御健闘を祈り気軽に御利用下されば幸いです。 をお願い致します 相談日に致しておりますのでお 尚、第一、第三土曜日は無料

大17 高鉾 吉

が」「ゴキブリ駆除の方法は?」 「家の前の側溝にボウフラがい ハイ、保健所生活環境課です

ん問題の提起をして頂きますよ

階の社宅に住んでいるが毎朝赤 開店したいが、届け出は?「四 い「〇〇さん宅のし尿浄化槽か い水が出てくる。なぜか?「ヤ ら汚物が流出している」「床屋を っぱいいる。薬を散布してほし 力が多い!」etc。朝九時 う過ぎてしまいました。この間

身のまわりすべて、即ち、 食…井戸水・水道水、住…こん 衣料のホルムアルデヒド規制、 などなどである。 虫駆除・排水などの住居衛生、 運んでくる。環境衛生の仕事は から電話が市民の苦情、相談を

ので、皆様方の御助言、御指導 勉強を継続し技術力診断の確立 に役立ちたいと考えております 苦情処理。暑いなあ! 車内は 時再び出発、今日の最高気温は をし、汗びっしょりだ。午後一 炎天下でバレー、 所内は二六℃、涼しい。昼食後 十二時少し前に事務所へもどる。 同士のトラブルはやっかいだ。 四五℃、炎天下で現場調査、隣 三五℃とカーラジオが告げる。 九時半、 貨物自動車で区内へ

り、事務処理。 塩素の測定、大腸菌群用の採水。 を指示。四時半に事務所へもど 次に△△寺へ。墓地の衛生管理 当方は泳げないし、暑さ百倍だ。 はす 初めて"食酢"といえるものに 一般に "食酢" と言っても酢酸 し出される種々の成分があって らせん。やはり醸造中にかもりっぱいだけで何の旨味もあ っすめたものと思われる方が と思いますが、それだけで

谷田孝雄

全く「忙しい」の一言であった。

会社に入って一年四カ月がも

て

人をお願いします

原稿をお寄せ下さい

本日ここに会報第九号をおとど 残暑お見舞い申し上げます。 | をお寄せ下さいますようお願い おります。 つきましては原稿 | 生」「職場紹介」「クラス会だより」 立十四年一月に発行を予定し しました。次号(第十号) 致します。 その他詩歌、俳句、随筆など何 い出「今私は……」「社会人一年 「総説」「大学(農専)時代の思

が違う。また一日の中味の違う ことと言ったら.....。 と自問自答する位です。もっと 残業。五時に帰れると「こんな に早く帰って良いのだろうか?」 朝八時四十分から夕方五時、 んが、しかし何といっても朝 たので帰宅時間は変わりま 子校時代も七時頃までは学校 がしたいていは一~二時間の

> 転居されま 田中先生が

す

ち致します。

……お知らせ…

なりと結構です。で寄稿をお待

品のチェックをはじめ食酢の用 現在私は研究所に所属してお か問題が解決せず四苦八苦 の向上等種々扱っています 実験を行っていますが、な 発、食酢の品質改良、発酵 研究テーマを与えられ、種 研究所は工場の原料や製 丘ハイツ の木坂一の二七の一八 朝日が 慎しんでおられる様です。 さい。最近はアルコールの方は 近くにお住まいの方は御訪問下 を去り、東京に居を移されます。 九月末に長年住み慣れた津の町 新居は、〒52東京都目黒区柿 田中庄助先生御夫妻は、今年



ゴルフコンペ

があるので、これからも頑張っ なるのであって、なかなかやっ 行てるものであり、張り合い仕事自身、私にとって興味 なものです。しかし食酢を 何でしょうか? で意見があり 行ったらとの声があります。如 同好の志によるゴルフコンペを るいはその他都合のよい時期に ましたら〒五一四津市南新町15 18渡辺和己までお寄せ下さい 明年の総会の前日又は翌日あ